

○日時：令和4年6月22日（火）10：00～12：00

○場所：大阪府立西淀川支援学校 図書室

○参加者：山中会長、大槻委員、西野委員、上久保委員、小川委員、
貴志校長、中尾事務長、藤原教頭、苅谷教頭、西田首席

○内容

1. 開会のことば（校長より）

ここ2年間、新型コロナウイルス感染症対策のため、学校運営協議会を集合型で実施する機会を失っていたが、ようやく実施できるようになった。本校校長に就任してから2か月となり、肢体不自由教育に関わることができて大変嬉しく思っている。「目の前の子どもたちに何ができるか。」を考えることができるのは、大いに魅力であるとともに責任も感じている。教員の年代層を見ても、教員2～4年目の若手教員が多く、専門性を身に着けることを組織として取り組んでいきたい。OJTだけでなく、何か「仕掛け」（自立活動や医療的ケアを指導するシステム）を構築することが課題である。

2. 校内見学

プール学習や、その他授業の様子、施設などを見学する。

3. 事務局より説明（別紙参照）

- (ア)「学校運営協議会実施要項」について
- (イ)「保護者からの意見（意見書）」の受付方法
- (ウ)「傍聴に関する要領」について

4. 議事

(ア)「令和4年度学校経営計画および学校評価」について

【校長より】

前校長が作成されたもので、継続していきます。自分なりに解釈して説明をしていきたい。

中期的目標5点

1. 【新学習指導要領への移行を踏まえた肢体不自由教育の実践力向上のため、効果的な教育課程を編成して実施・評価・改善を図る】

- ・教科書や学習指導要領に書かれている内容を観点に入れ、具体的に「授業の質をどう担保するか」が重要。

2. 【将来の自立と社会参加をめざし、児童・生徒一人ひとりの実態を踏まえて教育活動を推進する】

(1) 児童・生徒の実態に応じた学校行事を含めた教育活動の充実

- ・学校行事は、どんどん再開し実施していく方向で進めている。充実させるためには、目的とその効果を明確にしていく必要がある。

(2) 児童・生徒一人ひとりの学習効果を高めるため、GIGAスクール構想の下で整備された

一人一台端末の有効活用を推進し、児童・生徒の実態に応じたICTを効果的に活用することで、これまでの教育実践の蓄積に、個別最適な学びを組み合わせ、主体的・対話的で深い学びを実現し、学びに向かう環境づくりの充実に努め、教育の質を向上するとともに、学校全体で情報リテラシーの育成を推進

・コロナ禍で、逆に進んだ側面が、「GIGA スクール」であり、環境整備や導入が進んだことはとても良かったが、どう活用していくかが大切。You tube を見るだけ、音楽を聴くだけではなく、質的向上をめざす必要があると考えている。

(3) キャリア教育の観点から企業、事業所や労働関係機関などとの連携を図り、個々の児童生徒にとってのグローバル社会での社会的自立を推進

・今年度進路部で、「卒業生のお話を聞く」という取り組みを、ちょうど今、この時間に行っている。卒業生のお話を聞くことで、生徒の社会に出たい気持ちを育てることを進めていきたい。

(4) 児童・生徒の作品を紹介する「西淀ギャラリー」の充実を促進

・作品展は行事として行い、西淀ギャラリーは年間通しての発表の場として設定し、認めてもらえる機会としたい。

(5) スポーツ交流（ポッチャ）を推進しQOL向上を推進

ア ポッチャクラブを柱として、スポーツ活動を活性化するとともに様々なスポーツ交流に参加できる環境づくりの促進

・ポッチャ大会など、対外的な機会により活動できれば。

3. 【子どもの障がいの状況に応じたより良い教育活動を実践するため、特別支援教育に関する高い専門性と授業力の向上をめざす。】

(1) 研究テーマに沿った授業研究（研究授業と授業検討会）を実施、PDCAサイクルによる授業改善を推進

・「教科の軸を意識した授業づくり」を組織的に行っている。本校では、研修体制が整っており、全校としてのいい取り組みができています。

(2) 本校での自立活動指導への支援体制の確立

・今年度より、新たに「指導教諭」を配置し、専任で指導する体制をとっている。特に経験の少ない先生を支えている。

4. 【共生社会の形成に向けて、障がい者理解並びに人権教育を充実させるとともに特別支援教育の地域センター校としての役割を強化する。】

(1) 子どもの人権を大切にする道徳教育・人権教育に関する研修に努め、教育活動全般を通じての違いを認め合える人権尊重の教育を徹底

・「一人ひとりを大切にする教育」が人権教育の基本である。

(2) 肢体不自由の子どもについての学校生活や教科指導の支援、生涯に関する情報提供、教材教具の紹介などの支援・相談、地域の学校教員向けの研修実施を促進・充実

(3) 近隣の知的障がい校LSとの連携を構築し、より充実した地域支援体制を確立

・今年度、大阪市ブロックの推進校として本校がリードする形で、体制作りに取り組み

始めている。

(4) 交流及び共同学習の推進

- ・学校間交流や居住地校交流が、進み始めている。保護者が希望されれば、100パーセント実施できるようにしたい。

5.【学校・家庭・地域との連携と安全・安心な学校づくりを推進する。】

(1) 避難訓練や防災学習の充実、個人情報管理機能の向上及び不祥事（体罰・セクハラ）を未然に防ぐ体制を図り、安全で安心な環境を整備推進

- ・本校の場所は海拔0メートルで、緊張しているし、そのことを怖いと思わないといけない。今年度よりアドバイザーを招き、また、教員で「津波高潮センター」へ研修に行く計画をしている。

(3) 学校組織改編を進め、組織の「見える化」と学部・分掌間の連携強化、円滑な業務運営の推進などによる働き方改革の推進

- ・教員自身が、組織的に動いたり考えたりできるようになってほしいと思っている。教員からどんどんアイデア出てくるような学校にしたい。

(3) 学校ホームページ等を活用した最新の情報発信、講義・相談など支援教育への理解・支援の深まりとつながり

(4) 新型コロナウイルス感染症等への適切な対応・対策体制を確立し、「学びの保証」「人権尊重の教育の推進」「教職員の負担軽減を推進」

- ・しっかり取り組んでいきたいと思っています。

【委員より】

- ・校長ブログを見たが、とてもきれいな文章で書かれていたので、より親近感を持ってもらうためにも、校長が悩んでいることや愚痴のような「リアル感」があってもいいのではないかと思った。
→愚痴も取り混ぜて取り組んでみます。
- ・先ほど校内見学で授業の様子を見たが、魚釣りを取り入れたり、絵の描き方も考えられていたり、工夫されていると感じた。先ほど校長の話の中で「仕掛け」を作るとあったが、先生たちの「熱量」を求めているのかなと思った。「勉強会」のような仕掛けづくりができるかなと思った。
→教員は、授業に対して満足することも大事だが、取り組み続けることも大事。その時に「やりがいを見つける」ことが難しいが大切。
- ・自活専任など、専門性の高い先生と一緒に「楽しい」と思える授業づくりを行うことで、教員の熱量も上がってくるのではないかと思う。
- ・授業見学をして、内容が工夫されていると感じた。この2年間は、新型コロナウイルス感染症対策のため、保護者が知る機会が少なくなってしまう。今年から見ることでできつつあり、ありがたく思っている。行事でなくても、日々の様子をブログ等であげてほしい。日々の様子を見ることでできたら嬉しい。
- ・新型コロナウイルス感染症対策のため、この2年間止まってしまっていたことが再始動するので、なるべく時間を無駄にせず、ベテランの先生から若手の先生に、しっかりとスキルを伝えてほしい。
- ・教員の写真や紹介が掲載されたものを配付してほしい。学年によっては、メンバーが大きく変わっているので検討してほしい。
- ・一人一台端末について、どのように運営されているか教えてほしい。
→基本的には学校管理のもと、校内において活用している。持ち帰りなどはしていない。

- タブレット端末を使うと、つい使いすぎてしまう傾向が出てしまう。その子どもの能力に合わせた使い方が重要。例えば、音を聴いているのか、画像を見ているのか、何か感じているのか。遠くの画面ではなく、自分のタブレット端末を使用することで、個々の能力が発揮できるような使い方をしてほしい。子どもの得意なことを発揮できるように、楽しみにしている。
- 子どもの得意なところをアセスメントし、自立活動や授業で、一人一人に則したねらいが定められるようにしていくことが大切だと思う。
- 先ほどの校内見学で外国籍の児童がいたが、家庭との連絡などは大丈夫なのか。
→連絡帳を通じて、簡単な英語でやりとりをしたり、また懇談の時などは通訳の方をお願いしたりして対応している。

(イ) その他

【委員より】

- 「意見書」に関して、web上で直接記入して送信できる形になればいいのでは。
→まだ確立できていなので、将来的にはできればいいと思う。

5. 閉会の言葉

【校長より】

今日この場で、皆様に直接お会いできて、また貴重な意見もいただけて本当に良かった。今日いただいたご意見は、次回以降に盛り込んでいければと思っている。

6. 事務局より 連絡

- 次回の開催について…11月下旬あるいは12月初旬
「学校経営計画および学校評価」中間報告等他